

感動をありがとう新聞

発行者

学校名 宮古小学校
学年 5年
名前 小笠原 真吾

ふれあいイベントのキャチボール

上手と褒められたよ

9月6日盛岡市のき
たぎんボールパークへ
樂天・巨人の試合を観
にいきました。試合後



の選手ふれあいイベントで、日當選手と吉野選手とキャッチボールをしました。

良いボールを投げるために僕が意識したことは①足を大きくあげ、つま先を投げる方向に向ける。②投げる方向に顔を最後まで残すことです。どちらの選手の時も、選手や周りにいた人が褒めてくれました。

9回裏2アウトランナーバースヒットを放ちました。

でも、僕が上手に投げられたのは、選手たちが僕の目線でキャッチボールしてくれたことと、笑顔で励ましたからだと思います。

土壇場タイムリー



一人一人丁寧な対応に感動

ふれあいイベント終了後、選手たちが、出待ちをしていたファンたちへ、ユニフォームやボール、色紙にサインを書いてくれました。

試合終了後、疲れて

方向へ痛烈なツーベースヒットを放ちました。

ここで代打永田選手。皆がここで打つてくれという場面で、期待に応えるかのよう

た。このような緊迫した場面で、粘り強い打撃は、さすが樂天の選手た。

は、さすが樂天の選手た。

だと思いました。僕はこれからも樂天を応援していきたいです。

ファンサービス

ます。たった数秒の時間でしたが、選手たちの優しさにも触れ合えた「ふれあい」イベントでした。

記事

選手たちは疲れているから、僕までは回つて来ないと思いまして。僕は大人の間に挟まれて目立たないので、見つけてもらえたかドキドキしながらも、ユニフォームを差し出すと、選手が見つけて書いてくれました。

選手のやさしさを間近に感じることができ、樂天の選手がもうと好きになりました。

いる中、一人一人丁寧に対応してくれたことに、周りにいたファンの人たちも驚いていました。